第２学年美術科学習指導案

対　象　青森市立沖館中学校　２学年　１４０名
指導者　漆舘　寿子

１　題材名　「ねぶたは総合芸術　～巨匠の技に迫る～」
Ｂ鑑賞　　（１）ア（ア）　　イ（イ）
共通事項　（１）ア

２　題材について

（１）学習指導要領との関連

本題材は、学習指導要領の次の目標・内容に基づいて設定したものである。

第２学年及び第３学年の目標と内容

（１）　対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。

（２）　自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（３）　主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく態度を養う。

内容

Ｂ　鑑賞

（１）　鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア　　美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身につけることができるように指導する。

（ア）　造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

イ　　生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

（イ）　日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさ美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

［共通事項］

（１）　「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　　形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

（2）指導にあたって

青森市では、毎年８月に青森ねぶた祭が開催される。本校の生徒にとって、ねぶた祭の山車である「ねぶた」は身近な存在だが、祭りの高揚感の中では、山車として全体像を見るだけに留まりがちである。

しかし、ねぶた制作においては、ねぶたは一台ごとに、ねぶた制作に携わるねぶた師の個性と新たな表現方法への挑戦が表れており、特に、近年の「ねぶた」は「書・彫刻・デザイン」が高次元で融合した「総合芸術」として、美術大学の共同制作に取り入れられたり、街を彩るディスプレイになったりするなど、アート作品として展示されることも少なくない。生徒が今後の制作活動において、より豊かに表現するためには、こうしたプロの作品から具体的な技法や工夫を間近で学び取る経験が有効であると考え、本題材を設定した。

指導にあたっては、「鑑賞は、次の創造の源である」と考えている。そこで本題材では、ねぶたを「総合芸術の作品」「技の宝庫」として捉え、鑑賞活動を設定した。導入では、ねぶたの家ワ・ラッセで行っている全国小・中学生ねぶた下絵コンクールで受賞した二人の生徒が、「色彩の響き合い」や「針金の影や筆の勢い」に着目して、ねぶたの魅力について語った動画を視聴させる。この動画を視聴することによって、生徒は「同じ作品でも見る人によって発見が違ってよいこと」を理解し、「書（線）・彫刻（構造）・デザイン（色彩・光）」の視点から鑑賞し、生徒一人ひとりが巨匠の技として見つけた「技法」や「工夫」を写真撮影して収集する活動を行うこととしている。これにより、生徒は漠然とした鑑賞から、目的意識をもった能動的な「みつめる」活動へと転換していく。更には、自分ならどんな「技」を取り入れてみたいかを考え、今後の自身の表現の引き出しを増やすものとして、「技の写真」を蓄積するとともに、「技の写真」を共有し合うことで、自分一人では気付かなかった表現の在り方に思考を巡らせることもできる。今後の制作活動の意欲や新たな発想を作り出すことにつなげていける機会としたい。

また今後の活動として、「ねぶた」の技法を使った「ねぶたランプ」の制作を予定している。和紙などの様々な素材で灯りを作る題材があるが、本題材で学んだ「巨匠の技」をヒントに、生徒の発想・構想がより広がることを期待したい。市場には、ねぶたを解体した後のカラフルな和紙を使用した照明インテリアなどがあり、目にしている生徒もいる。本題材を経て「巨匠の技」を体感した生徒たちが、鑑賞して気に入った色彩や書き割りなど試したくなるのではないかと想像にかたくない。

3　題材の目標

・ねぶたの「書（線）」「彫刻（構造）」「デザイン（色彩・光）」といった造形的な性質や、それらが感情にもたらす効果を理解する。（[共通事項]）　（知識・技能）
・受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、他地域の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。（「Ｂ鑑賞」（１））　（思考力・判断力・表現力）
・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習に取り組もうとする。　（主体的な態度）

4　研究内容との関わり

①造形的な見方・考え方を引き出す「出会い」の工夫【発見】

動画で提示された３つの鑑賞視点をヒントに、実物のねぶたを多方向から深く観察する。

②創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫【試行】

「なぜこの配色は美しく見えるのか」「自分ならどう取り入れるか」など思考を巡らせる。

③伝える喜びを広げる鑑賞の工夫【対話】

「どこに注目したのか」発見したよさや美しさが見て分かるように撮影する。それらの写真を「私の発見した『巨匠の技』」として他者と共有し、自分の表現の引き出しを増やす。

④感性を未来・社会へつなげる場の工夫【接続】

地域に根付き継承され、かつ進化している造形美の感性にふれるとともに、先人の工夫に注目することで、表現の幅を広める。

5　評価計画と評価規準

（1）　評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ねぶたの造形要素（線、構造、色彩等）の性質や、それらが感情にもたらす効果を理解している。	ねぶたや受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

（2）　指導計画（２時間）

時	ねらい	主な学習活動	評価の観点		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
1（本時）	ねぶたを鑑賞し、その造形的な工夫（筆使い、構造、色彩の効果など）に着目し、ねぶた師の表現の意図や工夫について考えながら、見方や感じ方を深めることができる。	・造形的な視点を働かせながら、表現の創意工夫や美しさに気付く。 ・何に気付いたか分かるように「巨匠の技」をクロームブックで撮影する。	写真	写真 コメント	活動の様子 発表内容
2	撮影した「巨匠の技」の写真を互いに鑑賞し、生徒自身の表現の参考にする視点で捉え、見方や感じ方を深めることができる。	・写真を紹介し合って作品のよさや美しさなどについて気付く。 ・表現の共通点や工夫等、造形的な視点を働かせながらグループで話し合い、クラス全体に発表する。ワークシートにまとめる。	写真 ワークシート	写真 発表内容 ワークシート	活動の様子 発表内容

＜参考＞　ねぶたの鑑賞から広がる題材例

「墨を感じて」
・墨と水が生み出す多様な表現方法を味わいながら、自分なりの気持ちやイメージを表現する。





「ねぶたランプ」
・ねぶたの造形の工夫や光と影の美しさを味わい、効果や目的を考えながらランプを制作する。





「和紙に描く自画像」
・自己の内面などを主題にして、墨や凧絵の具を和紙に描く技法の特質を生かしながら表現する。





６　本時の展開

（１） ねらい

ねぶたの造形的な視点（筆使い、構造、配色の効果など）に着目し、各自が見つけた「巨匠の技」や造形美を写真撮影することによって明確化し、他者と共有し合い、造形的な見方、考え方を深めることができる。

（２） 研究内容に関わる本時の工夫

伝統的かつ親近感のある身近な「ねぶた」を鑑賞することによって、各自が見つけた造形要素を、写真撮影によって視覚的に切り取り、明確化し造形的な見方、考え方を深め、自分の表現の幅を広げるアイデアとして捉えることができるようにする。

（３） 展　開（１／２）

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	留意点
導入	１　最近では「ねぶたは総合芸術」と言われるけどなぜだと思いますか。 ねぶたを見てどう思いますか。 スライドと動画を見ましょう。 ねぶた下絵コンクールの入賞者がねぶたの魅力を紹介してくれます。 迫力がある、きれいだ、かっこいい、そういうふうに造形できる技がたくさん盛り込まれていて、ねぶたは「技の宝庫」です。 ２　学習課題を確認する。 学習課題 ねぶたの造形的に素晴らしいと思ったところや「巨匠の技」を見つけよう。	・総合芸術と思ったことがない。 ・ねぶたが終わってからでも飾るからかな。 ・大きくて迫力がある。 ・細かいところも作られてきれい。 ・書き割りに興味がわいた。 ・ねぶたを近くで見たい。	プロジェクターでスライドと動画を映す。 クラスルームに、ねぶたの造形要素のキーワード、鑑賞活動の手順、鑑賞のマナーを記載したシートを配布する。
展開	３　鑑賞の流れを確認しましょう。 どのような「技」なのか、工夫が分かる証拠写真のつもりで撮影しましょう。 「どのような」すごさなのかな？ねぶた師によって技の特徴や工夫がありそうですね。 どのような魅力を見つけたのか、ワークシートにも簡単に入力しておきましょう。	・鑑賞活動の流れ、集合時間、留意点などを確認する。 ・クロームブック内のワークシートを確認する。	クロームブックの動作確認をする。 造形的な特徴や工夫に気付き、何に注目したかが分かるように促す。

	4　ねぶたホールで鑑賞して、「巨匠の技」を見つけましょう。 　グループごとにねぶたホールに移動する。 　各自が見つけた「巨匠の技」を写真撮影する。見つけたことをキーワードで入力する。	・ねぶたを多方向から鑑賞する。 ・自分の感性に響く技法や工夫を探す。 ・発見した良さや工夫を、最も効果的に記録できる構図や角度で撮影する。 ・補色の組み合わせがくっきり対比されていて遠くからでも目立つ。 ・この色の塗り方、グラデーションは水彩画で真似してみたい。 ・書き割りの線の太さが違っていた。かすれているところもかっこいいし迫力がある。 ・目の前へうねってくる形が気に入った。立体作品に取り入れてみたい。	評価１ 多方向から主体的にねぶたを鑑賞し、その造形美や工夫を見出そうとしている。 行動観察 評価２ ねぶたの造形要素に着目して魅力や工夫を見出し、自らの言葉で捉えて見方・考え方を深めている。 写真、コメント 造形要素の何に心ひかれたのかを思い出させて見つけるように声掛けする。 造形的な工夫や良さについてコメントを添えさせる。
まとめ	5　学習の振り返りをする。 　同じねぶたを見たのに、みんな違う写真を撮っていますね。様々な巨匠の技を見つけられましたね。	・リアルというよりも強調したい形に作っているところもあると思った。	生徒の写真を数枚、プロジェクターで映し、紹介する。
	まとめ （例）総合芸術である「ねぶた」の表現や技法を見つけることができた。ねぶた師は、どう見せたいかを考えて、色彩や形など技を使っていたことが分かった。		
	6　次時の予告 　みなさんが撮影した写真は「巨匠の技」です。次回は、写真を紹介し合い、よさや工夫について話し合ってみましょう。	・クラスメートが見つけた「巨匠の技」にも興味がある。これからのねぶたも見てみたい。	